

## 芸術文化と科学技術を融合する総合研究への支援

財団の事業の一つに、芸術文化と科学技術を融合する総合研究のセミナーや研究会などへの企画提案や支援事業があります。芸術文化と科学技術の枠組みにとらわれない総合研究への支援をする

ことで、日本の文化の向上発展に寄与することを目的としています。

### 『感性と脳』研究会

東京都臨床医学総合研究所長(1997年当時)の宇井理生先生および国際基督教大学教授の村上陽一郎先生にコーディネーターをお願いし、4回シリーズで「感性と脳」研究会～心の豊かさを求めて～を開催しました。(於花王 すみだ事業場内ソフトリサーチセンター) 第1回は、感性の側から脳を、第2回では、脳の側から感性を考えました。第3回は感性を脳科学的に理解するために、感の表現プロセスに焦点をあて、第4回は感性と理性の融合・橋渡しについて講演・討議がなされました。

第一回研究会(1997年12月4日)

【基調講演】

養老 孟司 先生(北里大学教授)

【講演】

如月 小春 先生(劇作家・劇団ノイズ代表)  
大橋 力 先生

(ATR人間情報通信研究所室長・千葉工業大学教授)

第二回研究会(1998年6月10日)

【講演】

黒田 洋一郎 先生(東京都神経科学総合研究所参事研究員)  
松本 元 先生

(理化学研究所 脳研究センター グループディレクター)

第三回研究会(1998年11月19日)

【講演】

須永 剛司 先生(多摩美術大学教授)  
千住 真理子 先生(バイオリン奏者)  
岩田 誠 先生(東京女子医科大学教授)

第四回研究会(1999年7月8日)

【基調講演】

河合 隼雄 先生(国際日本文化研究センター所長)

【講演】

宮下 保司 先生(東京大学医学部教授)  
中田 力 先生(新潟大学 脳研究所センター長、教授)

### シンポジウム『社会の中の睡眠』

国立精神・神経センター精神保健研究所室長白川修一郎先生を座長とし、社会の複雑化、都市型生活化、情報社会化、24時間社会化といった社会の変化が、日本人の睡眠を急激に変容させるといった内容で、医学的なアプローチはもとより、文化人類学、社会学、心理学などの見地から、睡眠を解剖するシンポジウムを開催しました。(於 KFCホール)

(2003年1月25日)

【講演】

山極 寿一 先生(京都大学大学院理学研究科教授)  
堀 忠雄 先生(広島大学総合科学部教授)  
井上 雄一 先生(順天堂大学医学部精神医学講座 講師)  
白川 修一郎 先生

(国立精神・神経センター精神保健研究所室長)



シンポジウム「社会の中の睡眠」



「感性と脳」研究会

所属団体名及び役職は、開催当時のものです。